広報
かわち
発行所　河内村公民館
発行編集人　篠田彦次
印刷所　龍崎活版所

農業基本法について

村長　青野隆一郎

政府は只今の国会に農業基本法を制定すべく提案して、目下審議に入りつつあります。われわれ農村に住む者といたしましては、誠に結構な又、当然行わるべき処置と考え、歓迎するものであります。現在の農業基本法の精神を貫いておりまするものは、あくまでも、資本主義、自由主義にたって、そして、その上に自立自営の農家の育成発展を遂げようと、こういう考え方であるようです。この自立農家の育成という事は、ひいては、所謂他産業との経済的格差を少なくして、そして農業による経済収入の増加をねらっておるんでありまするが、たゞ此処でわれわれが特に考え、みなさんと共に、その方向に進まなければならんと思う事は、いわゆる農業が、近代産業と、余りにも経済格差が開いて来たというその処のものはです。一つには農業というものに対する基本的な考え方が問題であり、次には、その経営の考え方が問題であって、この二つを近代的農業技術と近代的経営とに合致させるべく自らが農業基本法に従って、努力しない限りは、決して法律ができたからといってもわれわれの生活はよくならないのであります。言換えまするならば、農業基本法は、農業の進むべき方向を明示してあると同時に、それを活かしてわれわれのものとする為には、われわれの協力と努力があって、はじめて可能となるのであります。農業が戦後日本の経済復興にいかにつくしたかという事は、これは、むしろ、農村に住んで、農村で農業を営んでいるものよりも、低賃金、低米価ということを一つのうたい文句として、そして生産をあげて来た処の経営資本家の、産業資本家の方が、身にしみて知っていると思うのでありますと同時に、政治家もよく、この事は知っておる筈であります。むしろ今日の農業基本法の制定は、おそきに失していやしないかと云ううらみなきにしもあらずと思うのであります。

その農業の憲法を制定して、政府は農民の経済的成長発展に力をつくすという事をいっておられますけれども、これは、いわゆる、外的要請とでもいいますか、外部から農村に対して、おしつけているという事もいいない事もないのでありますが、事実はわれわれ農民がお互に農民の立場にたって、社会人としての考え方をした時には当然政府に向って、農業に対する施策を要求する筋合いのものでなかろうかと思うのであります。もしも日本の経済が農業だけが現状維持であって、そして一般産業が発達していった。その時には、われわれの生活は余りにも社会の現実からはなれ、みじめになりはしませんか、と同時にこの農業の近代化を貫いておる一つの考え方としては、方法としては、農場の強化と協業化、共同化という事をいっております。そして政府は又地方公共団体を通して、その具体的な施策をこうじていくという事をいっておりまするけれども、これは第一に近代産業が天文学的数字の大資本を要して利潤追及をしているにもかゝわらず、いつも農業資本というのは、個人の企業であって全く自立農家とはいっても、その規模は比較にならんのであります。故にもしも近代的な農業というものを建設するとしたならば、新しい農業資本を国家は、農村に注入すると同時に、われ〳〵はそれを完全に受け入れて消化する丈の理解力と、準備と方法を今から考えなければならんのではないかと思うのであります。農は国の大本なり、農はてん瑕なりという、その考え方から農業も一つの企業であるとそれが為には、近代化しなければ決して、その経済的発展成長はあり得ないという事をよく知ってお互が今後経営改善に発展に努力と協力をすべきであると思うのであります。

春は防火、防犯に留意

春は風が強くてしかも湿度が低いため、出火すると大火になりやすい時季です。外出のときには火の元を完全消す習慣をつけて、ラヂオやアイロンのようなデンキ器具類の差し込みを必ず拭くようにしましょう。

昭和三十六年産米事前売渡し申込制による予備予約の実施について

三十六年の目標数量　一〇七、〇〇〇俵
三十五年の実績に対し　三、八六一俵増

昭和三十六年産米の売渡しは昨年同様売渡し申込み制によるものであるが、本年は予備予約を実施する事になりました。従来予約の取りまとめは原則として(米価決定後)予約受け付け開始日から、始めたものですが、予約の最盛期が農繁期に遭遇すると、しばしば、事務処理の遅延を招いているばかりでなく、生産者においても迷惑をこうむる状態であり、適正数量の予約を行う事が困難であった。この事は、この制度の特質である、前払概算金の受理をおくらせその有効な資金の運用をはばむ等生産者はこの制度の恩恵を受け得ないものと思われます。したがって本年産米は、この制度の特質を有効適切に運用し、事務処理の短縮と生産者の利便の為に予備予約を実施し、売渡し可能量の全量予約を目途とし、現行制度の適正な運用を期するものであります。尚本年の目標数量は一〇七、〇〇〇俵であります。これは昨年の実績に対し三、八六一俵の増であります。生産者におかれては、事前売渡制度を活用し、今から計画的に予備予約目標達成に協力願います。

国民年金法一部改正のお知らせ

◎拠出制国民年金について

一、老令年金は六十才からもらえるやうになりました

今まで老令年金は、六十才まで保険料を納め、六十五才から支給されることになっていましたが、今回の改正で六十才になってからなら、いつでも希望するときからもらえることになりました。その額は六十才になってすぐもらう人には、早くもらうことが出来るかわりに、六十五才からもらう額の約六割程度です。

二、保険料を十分に納めなかった人にも拠出制の老令年金がもらえるやうになりました。

今まで保険料を納めることができなくて、長い間免除を受けた人は、拠出制老令年金はもらえない代りに、納めた保険料を還して、七十才から福祉老令年金をもらえるしくみになっていましたが、今回の改正でこのやうな人に対しても保険料を一年以上納めていれば六十五才から七十才まで拠出制老令年金がもらえ、七十才から福祉老令年金一万二千円がもらえるやうになりました。

三、祖母や姉も準母子年金がもらえるやうになりました。

今までは、お父さんが亡くなって子供を育てているお母さんには母子年金がもらえることになっていました。しかしながら、同じように祖母が孫を養っていたり姉が弟や妹を養っているときは、母子年金がもらえなかったが今回の改正では例へば祖父祖母と孫が暮しているうち祖父が死んだ場合は祖母に準母子として年金が支給される。また姉夫婦と弟や妹が暮している場合も同じである。

四、母子、準母子、障害、遺児年金の支給期間が緩和されました。

保険料を三年以上納めて母子準母子、障害、遺児年金が支給されることになっていたが今回の改正で一年以上保険料を納めた場合は支給されることになりました。

◎無拠出制福祉年金について

一、現在祖母や姉が孫や弟妹を養っている場合でも準母子福祉年金が支給されるやうになりました。

拠出制の準母子年金で述べましたが、保険料の免除を長い間受けたため拠出制の母子年金が受けられない祖母や姉にも母子年金と同じやうな準母子福祉年金が支給され、また本年四月一日現在すでに、祖母と孫、姉と弟妹の世帯のやうにいわゆる準母子、状態にある祖母又は姉に対しては、直ちに準母子福祉年金が支給されます。

二、母子福祉年金の支給制限がゆるやかになりました

今までは、母子福祉年金を受ける資格のある人も、一諸に暮している世帯員の中に、二十五才以上にもなる大きい子がいるときはその子が重い病状態にかかっているときや失業の状態にあるときなどを除いて実際には年金は支払ってもらえないことになっていましたが今度、この支給停止の取扱が廃止されまして、一諸に暮している義務教育を終了した子に前の年に五十万円をこえるような収入があるときに限って、母子福祉年金は支給を停止するということにして、実際上、非常にゆるやかな取扱いになりました。現在、老令福祉年金や障害年金をもらうことができる人を扶養する場合の所得制限と全く同じですなお準母子福祉年金についても同様の取扱いであります。

◎注　疑問の点がありましたら役場国民年金係まで申出で下さい。

今年から滞納に利息がつく

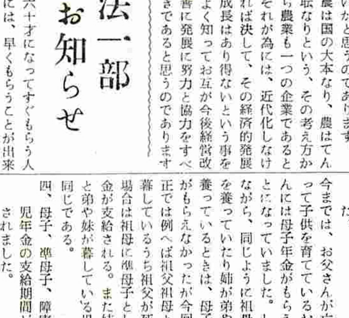
憲法第三十条に「国民は法律の定めるところにより納税の義務を負ふ」と定められておりますとおり、税は吾々が生活を営んで行く上の必要なる経済負担であり、文明社会に於ては、例外を除き総べての人々が負担して居る処です。個人の生活は国や自治体を離れては存在し得ないので、税を納めるといふことも又不可欠のものであります。言ひ換えれば、住民は銘々がなすべき諸々の仕事の代価として、金銭を国や村に提供し、国や村はこのお金を諸々の仕事にかへ住民のために還元するのであります。それには税法に従った行政権が行はれ、一方均衡の取れた適切な賦課徴収と。これに伴ふ納税者の義務遂行が円滑に行はれ、始めて健全な村の財政が生れることは今更申し上げるまでも御座いません。

本村の納税成績も逐年上昇して居りますとは云ふもの丶尚多額の滞納が残って居ります滞納して居られる方々は云はゞ仕事をさせた代価が未払となって居る訳でして、理由は種々御座いましょうが、是非共これは支払って頂かなくてはなりません。物を買って代金を支払ふと同様〃否〃それ以上にお考え頂きたいものであります。

前年度は秋以来徴収に総力を傾ける一方完納者のための報償金の引下げ迄も実施しその財源を行政上の質の向上充実に無駄なく還元して居る現状であります。滞納は個々については、僅か数千円程度の些少な額であっても、村全体としては高額となり、村財政の上に暗いかげとなります。本年度よりは、完納者、滞納者の均衡が得られるよう、延滞金を徴収することに決まりました。

これを契機として皆様御銘々が納期内に完納していたゞきたいと希って已みません。未だ納税組合に加入して居らない方は即刻御加入下さい。そして種々の恩典を受けて下さる様おすゝめ致します。

堆肥増産品評会審査結果



耕地の維持増進を図り作物の増産をよりよくするには自給肥料の増産はもとより自給肥料の質の改善にあると思います。今回河内村産業振興会が堆肥増産品評会を開催し堆肥の増産と質の改善により健全農家の育成を企画されたことは極めて適切な企でありましてその効果は大なるものと信ずるものであります。こゝに主催者並びに関係各位に深く敬意を表するとともに河内村産業振興会の事業が大きく発展することを期待するものであります。今回の審査は総出品点九〇点について各支部毎に予備審査を行ない、之を三月二十日村経済課員、産業振興会役員立会の上河内地区農業改良普及所員によって最終審査を行ないました。審査方法は舎外、舎内の二つに分け、舎外については、①堆積場所、②覆蓋及堆肥盤、③管理、④品質、⑤生産量(総生産量と一〇アール当り施用する量)等について、舎内については、①堆肥舎の位置、②堆肥舎の構造、③管理、④品質、④生産量(総生産量一〇アール当り施用する量)等について総合により細部に亘って慎重に審査を行いました。その結果優秀生産者は次の通りです

	舎内	舎外
特等賞	高橋千介	斉藤　高
一等賞	高野　馨	小巻知義
二等賞	垣沼　清	篠田　敏
	大野松夫	田口全男
三等賞	植竹利夫	高島光夫
	大竹　仁	松本高雄
	福田　清	高橋尹二
	四月朔日栄二	宮本　寛
	松崎義夫	島田　良

農地の転用について

最近農地(田畑)を潰して、他の目的(住宅の敷地等)に転用する場合は必ず農業委員会を通じて、県知事の許可を貰って下さい。これは農地法第四条及び第五条の規定に従って行われるものであり、自分の農地、他から求めた農地いづれの場合であっても当然許可申請をしなければなりません。申請書は農業委員会にあります。

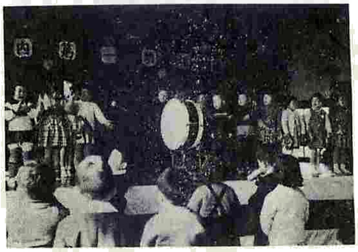
河内ところどころ

○名をもゆかしい　万年橋は
　富士と筑波で　日が暮れる
○釣の名所は　庄布川あたり
　お米とぐ娘が　水鏡
○古い歴史の　五十瀬の森に
　月が啼いたか　ほとゝぎす
○桜はらはら　古刹に散って
　鐘がかすむよ　大洞院

G・S・生

●たねまき●

もう種子まきがはじまりました。米の多収穫をするには第一に地力の増強が大切です。収量を多くするには、それだけ土地の力を引き出しますから地力を消耗します。また保護苗代用の油紙、ビニール、ポリエチレンなど、よい製品をつかって間違いのないようにしましょう。種子には必ず消毒と選種をしましょう。いもち病、ごまはがれ病、ばか苗病、線虫心枯病などは主として種もみから伝染しますから、種もみの消毒が必要なわけです。また、これらの病気にかゝっているものは、比重が軽く、不良もみですから、選種によって除きよく充実した種もみをえらびましょう。保温折衷苗代のたねまきは必ず芽出ししてからまきましょう。芽出しの程度は三〜六ミリ位がよく、伸びすぎないように注意しましょう。



よい子の学習発表会

畑の麦も背丈をのばし、な種も暖い気温にさそわれて、にっこり、黄色い顔をほころばせる、いつの間にか春はやって来たのだ。

こゝ河内村第一幼稚園では、この四月に小学校一年生に入学する子供達の終了祝であるいつもより、きれいな服や、おべべに着飾った子等は、いつもよりうれしそうに、元気一ぱいはしゃいでいる。

今日は、長い間先生におそわった、遊ぎや、劇や、そして豆バンドの発表である。おかあさん方も大勢集りました。

そしてその母親達のひとみは希望に満ちあふれている。

思わぬわが子の成長ぶりに、わが子への期待は、無限にひろがっていった事だろう。

県豚共進会（笠間市に於て）当村より二頭出場いづれも二等に入賞した

去る三月四日より六日までの三日間に互り、笠間市佐白公園グランドにおいて、県豚共進会が行われ、河内村より、鈴木武雄氏（源清田）山本太一氏（源清田）各一頭出場した、いづれもヨークシヤ系で、鈴木武雄氏所有は県南地区共進会で上位に入賞しており、県共進会においては、二等の一席という優秀な成績をおさめた。尚山本太一氏所有豚も同じく二等に入賞し、畜産センター建設途上にある河内村として、このように優良豚が誕生した事はなによりの事であろう。

まえがき

農業の憲法といわれる農業基本法の制定が、われわれ農民の、かんしんの的となっている今日、農民としての認識をあらたにし、他の産業に劣らぬ態勢を築くべく努力をしなくてはならない。

やゝもすれば、世間の裏話と他人の陰口に話の花を咲かせ貴重な時間を無駄に過している傾向がなくもない現状である、これこそ、農村の発展と農民としての人格の向上を妨げる唯一の敵である。

こゝに、われ等農民の指導者高松圭吉先生より、これ等の問題について、卒直な御意見を記されてわが河内村の為に御寄稿下さいましたので、広報かわち紙上よりお伝えいたします。

尚、部分的に、しかも単に文章にのみこだわると、又もや非常な誤解を招く恐れが多分にあるやに思われますが聡明なる読者方には、先生の意図する処を充分御理解下さいまして、われ等が永住の郷土、河内村の発展と、農民としてかつ社会人としての人格の向上に努力される事を信ずるものである。

編集部

再び 農家短期大学の友へ

高松圭吉

◎学問は人間の心を豊かにし人生に自信をつけるものである。

この前。本紙上で、農家短期大学がしり切れとんぼみたような形になったことを歎いたところ、多くの友から、弁明やら不平やら、いろいろの報告をうけた。それで思いがけないことを知ったわけであるが、短期大学の人々が、ここでよく考えて置いてほしいことを再びこういう形で書いて置きたいと思う。

先づ弁明じみたことから始めるが、短期大学は政治結社か乃至はその準備機関かで、高松も政治地盤をつくるためにやって来ているんだという一般の見方を君達もしているとすればこわいことだ。そういう見方をする人は学問が何たるかを知らない人だ。村民の全部がそういう人であるなら、この一般的な見方も致し方ないだろうが、少くとも金江津の人達はそういう見方をしないだろうと私は信じている。

学問は人間の心を豊かにし人生に自信をつけさせるものだ。そして、そうなるまでには長い年季が必要になって来る。金江津の人達が、青年学級をやって既に十何年を経て居る。それで他の旧村の人達から羨まれる程になっている。もっと皆に身近な人は青野さんだろう。村長としてあれだけ自信のある人は日本全国にだって数少い。このあいだも早稲田の先生達といろいろ話して、村長としては世界一だろうということになって、ああいう人にこそ出来れば国政を担当して貰いたいものだ、そうしたらただの河内だけでなく、日本全国民があの人のおかげになるだろうということになった。それだけ青野さんが期待されるのは、ただ大学を出ているからとか金江津の旦那だからとかいうことじゃない。大学で、ものを考える力、本を読む目を養って、それから何十年の間、よく本を読み、話を聞いて来た、その年季のおかげであるといってよいと思う。

君達も村長さんの暇なときに行って話をしてごらん。青野さんがひとの話を聞くときのあの熱心な目の光を、他に誰が持っているか、本を読むときの熱心な態度を他の誰がとるか。少くとも君達は第二の青野になり第三の青野にならなければいけないだろう。その面目は、自分で勉強出来るような人間になることだ。そして誰が何といっても自分でじっくり考えることとの出来る人間になることだ。もっと極端に云うなら、素直な人間になることだ。青野さんが、いくらやかましいことを云うとしても、あの人程素直な人は河内村には居ないと思う。いつも若々しいのはそのためだろう。君達も他の人と比べてごらん。大概の人は、そんなことといってもとか、そりゃ良いにちがいねえけどようとか云ってしやあしやあしているだろう。青野さんはそうはしない、良いことは飽迄も良いとする。その素直さがあの人の自信になって現れて来るのだ。

もう少し青野さんについて話をしよう。青野さんが村長になったとき皆何といった。百姓ちやねえからなあとか、理想論ばかり云うからとか、文句を云う人もいただろう。中には自動車で飛び廻るとかおたかく止っているとか、くだらぬことを云う人も決して少なくなかった筈だ。私は正直、そういう話を聞くたびに河内の人達はなんとさもしい心の持主だろうと哀れに思ったことだ。青野さんもよく匙を投げないで頑張るなあと感心したものだ。その結果、河内もようやく軌道に乗って来たが、これは何といっても青野さんの先見のメイによるものだろう。目先が見えるということがどれ程大事かということは企業能力を話すとき講義したから思い出してほしい。農業も企業化しなければならないということになっているが、そのとき一番大切なことだ。それを考えると青野さんが当選したとき、いろいろ文句をいった人達が先見どころか、節穴同然の目だったことを思い出すだろう。今迄河内村いや旧村が、暗夜に鉄砲でなるようにしかならない式の政治が行われて来たのは、目先の見える人がいなかったためだと思う。君達は少くとも世の進歩につれて、何がどうなるか、それにはどうしなければならないかということを考えるために、五年、十年向うを見定める目を持たなければならない。そのために勉強をしなければならないだろう。

農家短期大学は実はその為に始まったものだ。それを政治結社か何かのように見る人がいたなら、それは余程おっちょこちょいな見方だと思わねばならない。

◎大学を世評の渦に沈めるな勉強は自分の為にやるのだ

そういう見方ができたのも。某候補が短期大学講師の肩書を公報にのせたからだとも聞いたが、よく考えてごらん。選挙公報に、何々大学教授とか、何会社の社長とか書いてあるが、それなら、その大学なり会社なりが政治結社か。とんでもない、ただその人の経歴を簡単にのせたまでぢやないか。短期大学が、どういうものかは君達が一番良く知っているだろう。それでいてそういう評判が立っのを君達は何故黙って見ているのだ。問題が問題だったというけれども、そりゃ過ちがあったかも知れない。然しそれを反省して元の軌道に乗せるのが君達の役目だろう。それを罪のなすりあいみたようにして大学を世評の渦に沈めてしまうようなことをしてはいけないと思う。若しそういうことで大学をおっぽりだしてしまうようなことがあったら、それこそ君達にとっては非常な損失といわねばならない。

こんど長竿の四Hクラブの青年が、どうしても勉強したいのだが、大学が一応軌道に乗るまで待つべきだろうかという質問をよこしたので、勉強する機会を人のために待ってはいけない。勉強は自分のためだから、思い立ったときに始めるように云ってやった。そうしたら七、八人位ではクラスにならないし、金もないからと云うので、そんなことにくよくよしてはいけない。二人でも三人でも勉強したいというものがいたら良いのだし、講師をよべないなら僕が行ってやろうと云って置いた。こんどの日曜日からずっと行ってやって、専門の書物が読めるようにしてやりたいと思う。そういう意気込を私も四Hの人達も持っているが、私は本当はそれを皆に持ってもらいたいと思う。

◎学問と政治のけじめ。

私が選挙地盤を作るために河内を訪ねているという評判はとんでもない話である。それこそ見そこなうないと開き直りたくなる。怒るのは大人気ないから目に角は立てないが人を見る目がないのかと唖然とする。今迄百何ヶ村を歩いて来たが、そういう、ひがめで見られたのは今回が始めてだ。云うもおこがましいが、政治家になるなら、とうの昔になってておる。それが嫌だから学問の道に入ったのだし学問の道によって政治をも批判する立場にある。今更ら政治家になろうとは夢にも思っていない。孔明のように、どうしてもなってくれと云われたならどうか判らぬが、自分からその地盤を築こうなんて高松はそんなけちな男ではござらぬと云っておこう。

ついで乍ら、高松は村を見て本に書いて金もうけする心算だろうという評判があるそうだが、いやはや恐れ入った話である。こういう評判を聞くのも河内村が初めてである。大概は自分の村が本に紹介されたといって喜ぶのだが、作者のふところまで勘定するとは恐れ入ったけちくささである。勿論、私も河内村のことを書いて原稿料を貰うことがあるかも知れない。然し安心し給え、今私が書いて金になるのは山村のことで、平場地帯のことは当分金になりそうもないから。

ところで、ものを書く者は書いて人々に知らそうという心算で書くので、金もうけというつもりで書いている者はめったにあるものではない。そのおかげで読む者はリコウになる。それで良いのであって書いたものが全部金になるというのであったら私達は大変な金持ちになれる筈である世の中はそうは問屋がおろさない。さしづめ、私なんかよく書いても、金になるのは三分の一位で、大半は無料奉仕だ。それでいて、書き物の原価計算をしかつめらしくするなら、先づ販売相場としてわれわれみたようなピヨピヨは原稿一枚が大体五百円で、一日十枚が平均だから、一日五千円ということになる。原価はそんなにかかるまいというが、例を、この原稿にとってみようか、これを書く為にというわけではないが、情況視察にひそかに河内村をたづねたとき、時間の都合で取手まで自動車で飛んだが終車に間に合わずに宿屋に入って、一日五千円がはどには飛んで居る。さて書くという段になると落付いて書く時間がないから、今伊豆の山の中へ逃げて書いているが、その宿代から足代は全部足が出ていることになる。今いるのは僕の行きつけの、古奈のさかやという温泉宿だが、隣の間には呉清源が来て棋を打っている。温泉とは以ての外だとつめだつのはやめなさい。考える、書くそんなときは、ひとりでじっくりしてなければいけない。

原稿を書くということは、君達がスキ鍬持って汗を流すこととよりももっと大変なんだと云っておこう。筑波山のガマが油汗を流すより、もっとひどいかも知れない。読者はそれを、しぼりとって、云いかえれば皆の知識に吸収するのである。ガマが金もうけしているとは聞いたことがないところで私が、そんなことにけちけちする人間でないことを知る人には知って置いて貰おう。

俄然、自己弁護みたようなことになったが要は、君達にはっきり政治と学問のけじめを知って貰いたいためである

おぼろげにも解ってもらえたかと思うが、政治は活働そのものであり、その本命とするところは民衆の持っている力を組織立てることである。それに比べると学問は極めて静的なもので、見る聞く知ることから出発して考えることを本命とする。

口さがない連中の批判は批判のためにすることで、四十九日すれば消えるものだ。農村がいくら閑だからといってそんなことに耳を傾けてないで、じっくりと勉強してほしい。・・・・・・・・・・むしろ批評にあけくれする人は隣に倉が建てば腹を立て、自分では決して倉をよう建てない人である。君達はそういう人になってはいけない